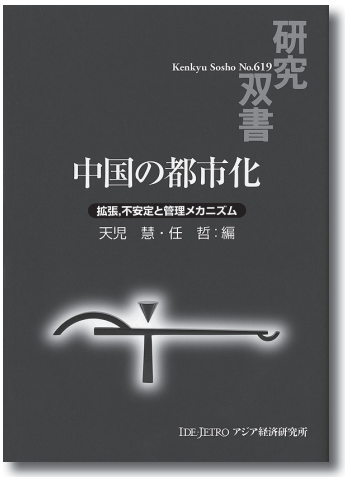
■任　哲■

天児慧・任哲編『中国の都市化―拡張、不安定と管理メカニズム―』

研究双書№六一九、アジア経済研究所、二〇一五年



都市化は都市部への人口移動を意味するもので、異なる利害が衝突する過程である。政府が提供する公共サービスをより多く獲得するために、あるいは、自己利益を実現するために、都市の住民は積極的に政治に参加する。急速に進む都市化過程では多様な利害のぶつかりがより激しく、解決策を見出すのもいっそう難しい。したがって、都市化にともなう利害の衝突がいかに解決されるかは、その都市または国の政治のあり方に大きく影響するのである。本書は、急速に進む中国の都市化過程で、異なる利害がどのように衝突し、問題がいかに解決されるのかを政治学と社会学のアプローチで考察したものである。

正治学および社会学のアプローチから中国の都市化を分析した研究は多数ある。これらの研究は大きく二つに分けられる。ひとつは中国の都市化が抱える独自の課題と経済発展の関係を分析した研究である。都市化過程で直面する課題をいかに解決し、経済発展につなげるかを考察することがこれらの研究の特徴である。もうひとつは都市化による具体的な社会問題、たとえば、農民工の問題、土地譲渡過程の利益補償問題、都市のコミュニティに関する研究などが挙げられる。

これらの先行研究は、異なる利害がどのように衝突するかを理解するには有益で、参考にできる点も多い。しかし、衝突と紛争がどのように解決されるかという側面についてはあまり議論していない。そこで、本書では、現在の制度設計のなかで、紛争がどのように解決されるか（あるいは、解決できないのか）にウェイトをおきながら議論を展開する。

第一章は、急速に進む都市化過程で大きく破壊された文化財と歴史的町並みを保存することを目的とする社会運動を分析した。運動を組織する中心人物が既存の政治的機会構造を熟知し、国家の政治理念と運動の正統性を結びつけたことにより、歴史的町並み保存運動は一定の成功を収めたと筆者は指摘する。

第二章では、都市化にともなう各種の反対行為を比較しながら、政府、ビジネス界、住民といった三者間の利害交渉がいかに行われたかを分析した。政策過程における専門家と政策ブレーンの主張は制度的には保障されたものの、政策過程で優先度の高いアジェンダにはならないことから、住民は集団抗議行動を起こすことで政府に圧力をかける傾向があると筆者は指摘する。

第三章では、民衆・地方政府・中央政府の三層アプローチで飛び級陳情問題が発生する原因を分析した。飛び級陳情問題が頻発するのは、地方政府の権限と責任の不均衡に由来するもので、問題を根本的に解決するには中央と地方間の権力関係を再調整する必要性があると筆者は主張する。

第四章では、都市化の進展とともに規模が大きくなったタクシー業界を取り上げ、利害紛争の原因とタクシー運転手による権利主張行動を分析した。筆者によると、利害紛争の原因は政府による不当な規制と独占的な産業構造に由来するものである。タクシー運転手はさまざまな方法で権利を主張するが、公式なチャンネルが乏しいことから、その声は政策決定者に届かない。そこで、運転手らは集団の力で行動するようになり、社会運動の特徴がみられると筆者はいう。

第五章では、政府が主導権を握って設立した物流協会を取り上げ、政府と協会の関係を分析した。物流企業が高度なサービスを提供するために業界団体を通じて行政に働きかける一方、行政側も業界団体を通じて企業の要求と市場の動向を把握するという良好な関係が構築されたと筆者は主張する。

第六章では、軍隊と社会の関係が大きく変化するなか、国土防衛と治安維持の間で揺れる人民解放軍の変化をとらえている。筆者は、国内社会のリスク増大が、人民解放軍の主要任務、および社会との関係にみられる変化を説明する最も重要な要因であると主張する。

中国の都市化を理解するには、インターディシプリンの共同研究を通じて都市システムを分析する必要性がある。本書はその第一歩として、政治学と社会学のアプローチから変化する都市システムを考察するものであり、今後の都市研究の土台作りと位置付けたい。

（にん　てつ／アジア経済研究所　在バークレー海外派遣員）